

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館



国立民族学博物館（みんぱく）は、文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこない、その成果に基づいて世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的として、1974（昭和49）年に創設され、1977（昭和52）年11月に開館した大学共同利用機関です。

みんぱくの研究者たちは、世界各地でフィールドワークをおこない、人類文化の多様性と共通性、そして地球規模での社会の動態について調査研究をおこない、その成果を国内外に発信しています。また、みんぱくには、総合研究大学院大学（総研大）文化科学研究科の二つの専攻、地域文化学専攻と比較文化学専攻が設置され、高等教育機関としての機能ももっています。

みんぱくがこれまでに収集してきた標本資料は、現在、約34万5千点を数えます（2019年3月）。これは、20世紀後半以降に築かれた民族学コレクションとしては世界最大のものです。また、博物館施設の規模の上で、みんぱくは、世界最大の民族学博物館となっています。



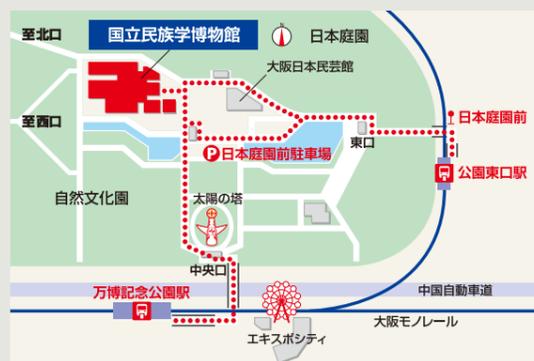
ご利用案内

- 開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 観覧料 一般 580円 / 大学生 250円 / 高校生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
- バス 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車 万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※ 大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
 ※ 高校生以下の方が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
 ※ 東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
 ※ 自然文化園(有料区域)をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。



フォーラム型 情報ミュージアムプロジェクト

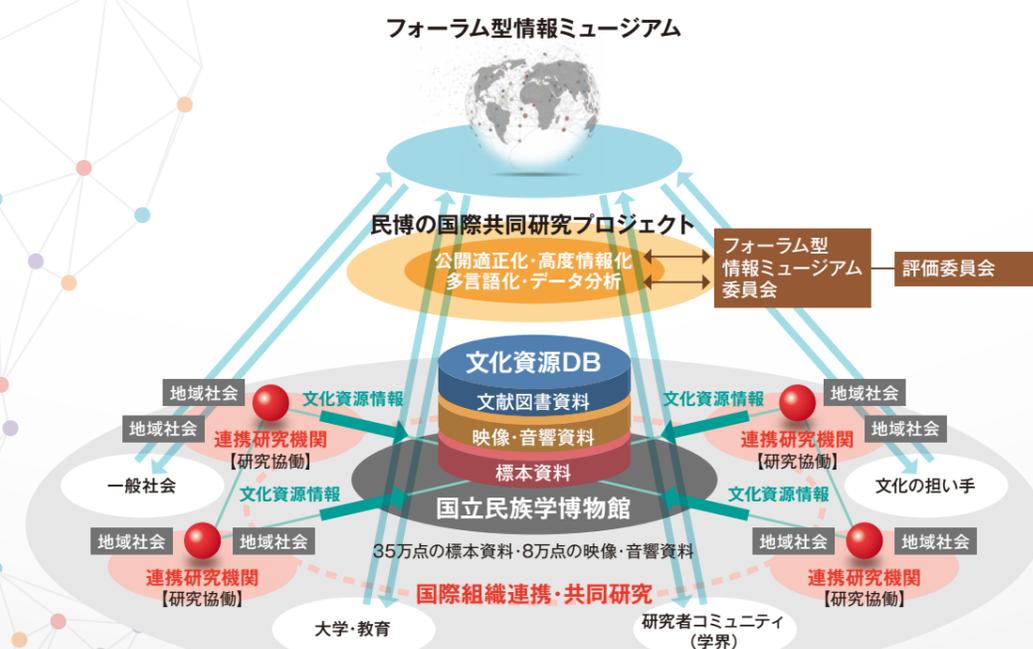
プロジェクトの概要

国立民族学博物館は、1974年の創設以来、世界の民族文化を研究し、多様な民族資料とそれらに関する情報を集積してきました。そして、現在、有形・無形の資料やそれらに関する情報を「人類の文化資源」として同時代の人々と共有し、かつ後世に伝えることが喫緊の課題であると考えています。

こうした考えにもとづき、国内外の研究機関や大学、博物館および現地社会と連携しながら本館および連携機関が所蔵する多様な文化資源について国際共同研究を推進し、その成果を、フォーラム型情報ミュージアム(多言語によるフォーラム機能をもつマルチメディア対応のデジタル・アーカイブズ)として、世界に向けて発信するプロジェクトを推進しています。

国内外の機関間連携による収蔵資料の世界規模での共有化・共同利用化をめざし、研究・教育や文化伝承・創造、情報収集のために研究者のみならず、文化伝承者や一般市民までもが利用できる学術拠点としての役割をになっていきます。

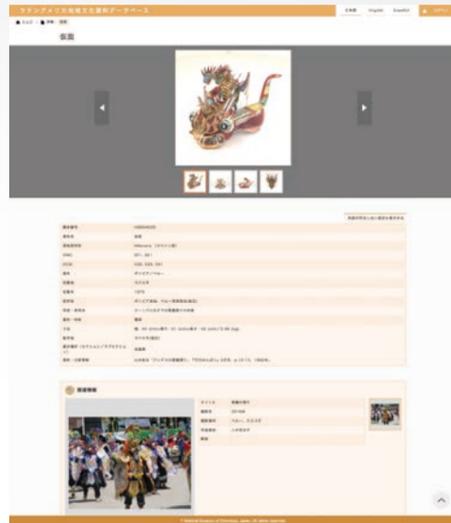
人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築



フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトの主な内容

1 多様なコンテンツを掲載した多言語データベースの構築

民博が所蔵するさまざまな文化資源をコンテンツ化した多言語データベースを構築します。



2 国際共同研究を通じたデータベースの構築とその活用

データベースの構築のために、現地の研究機関、ソースコミュニティと協働したワークショップや熟覧調査を行います。また、構築したデータベースを活用した熟覧調査やワークショップを展開します。



3 学術協定にもとづく国際連携展示

各プロジェクトは、国内外の大学、研究所、博物館と学術協定を締結し、いくつかのプロジェクトではそれにもとづいた国際連携展示を展開しています。



4 研究成果の公開

研究成果の公開として、国際シンポジウムの開催や成果刊行物の出版、展示会を開催しています。

フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト一覧

開発型プロジェクト

プロジェクト・リーダーのもと国内外の協定機関と連携しながら文化資源に関する各機関が持つ情報を共有化し、それをもとに国際共同研究を進め、データベースを構築します。

- 北米先住民製民族誌資料の文化人類学的ドキュメンテーションと共有 2014.6-2018.3
- 台湾および周辺島嶼生態環境における物質文化の生態学的適応 2015.4-2019.3
- 民博が所蔵するアイヌ民族資料の形成と記録の再検討 2016.4-2020.3
- アフリカ資料の多言語双方向データベースの構築 2017.4-2021.3
- 中央・北アジアの物質文化に関する研究 —— 民博収蔵の標本資料を中心に 2018.4-2022.3
- 海域アジアにおける人類の海洋適応と物質文化 —— 東南アジア資料を中心に 2019.4-2022.3

強化型プロジェクト

民博の文化資源に関する既存の情報を整理し、新しい情報を付加し、精緻化することによって、既存のデータベースを充実させるとともに、新たなデータベースへも展開します。

- 「朝鮮半島の文化」に関するフォーラム型情報ミュージアムの基盤構築 2014.6-2016.3
- 民博所蔵「ジョージ・ブラウン・コレクション」の総合的データベースの構築 2014.6-2016.3
- 徳之島の民俗芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築 2014.6-2016.3
- 北米北方先住民の文化資源に関するデータベースの構築に関する研究 —— 民博コレクションを中心に 2016.1-2017.12
- 日本民族学会附属民族学博物館（保谷民博）資料の履歴に関する研究と成果公開 2016.4-2018.3
- 中国地域の文化展示のフォーラム型情報ミュージアムの構築 2016.4-2018.3
- 楽器に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築 2016.4-2018.3
- 日本の文化展示場関連資料の情報公開プロジェクト 2016.4-2018.3
- 中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース 2017.4-2019.3
- 朝鮮半島関連の資料データベースの強化と国際的な接合に関する日米共同研究 2017.4-2020.3
- 中南米地域の文化資料のフォーラム型情報データベースの構築 2018.4-2020.3
- 民博所蔵「朝枝利男コレクション」のデータベースの構築 —— オセアニア資料を中心に 2018.4-2020.3
- ネパールのガンダルバ映像音響資料に関する情報共有型データベースの構築 2018.4-2020.3
- 時代玩具コレクションの公開プロジェクト 2019.4-2021.3
- ミクロネシア文化資料のフォーラム型データベースの構築 —— 20世紀前半収集資料を中心として 2019.4-2021.3
- 津波の記憶を刻む文化遺産 —— 寺石石碑データベースのフォーラム型情報ミュージアムへの改良 2020.4-2022.3
- セネガルにおける諸民族文化の映像記録を題材とする情報強化 2020.4-2022.3
- データベース「焼畑の世界 —— 佐々木高明のまなざし」の国際化と学際研究の展開 2020.4-2022.3